

全国高校駅伝 県予選会

V

男子 名経大高蔵 女子 豊川

全国高校駅伝の県予選会が2日、一宮市の大野極楽寺公園を発着点とするコースで開かれ、男子は2時間7分52秒で名経大高蔵（2年ぶり2回目）、女子は1時間10分19秒で豊川（3年連続14回目）がそれぞれ優勝した。ともに12月22日に京都市で開かれる全国大会へ県代表として出場する。

男子（7区間、計約42*）は58チームが出場。レース終盤まで、昨年優勝の豊川などと首位争いを繰り広げた名経大高蔵は、6区の内山椋太選手（3年）が7区の田中智稀選手（同）にトップでつなぎ、田中選手がリードを広げた。

36チームが出場した女子（5区間、計約21*）では、3位でたすきを受けた豊川の2区谷風紗選手（2年）が区間賞の走りでトップに浮上。3・5区も全て区間賞という圧巻の走りで、2位と3分以上の差をつけてゴールした。

全国大会は今年から出場枠が拡大。この日の県大会上位6チームも出場する東海大会（24日、岐阜県）の男女各上位1チーム（各県大会優勝チームを除く）も地区代表として都大路に出場できる。

◇2・10位の入賞チーム

【男子】②豊川③愛知④豊田大谷⑤岡崎城西⑥中京大中京⑦時習館⑧愛知黎明⑨豊橋南⑩中部大第一

【女子】②岡崎城西③愛知④人環大同⑤安城学園⑥中京大中京⑦旭丘⑧瑞陵⑨光ヶ丘女子⑩時習館

名経大高蔵 終盤に地力、王座奪還



手を突き上げ、1位でゴールする名経大高蔵・田中選手
いずれも一宮市の大野極楽寺公園で

名経大高蔵が終盤に地力を見せつけた。「6、7区に強い子を置けた。そこまですべて（トップを）競ってくれば勝てるかな」。加藤良寛監督（43）の想定通りの展開で、2年ぶりの都大路出場をつかんだ。

序盤、昨年優勝の豊川に20秒以上の差をつけられる場面も。それでも「後続で必ず勝ってくれる」。選手たちは仲間を信頼し、自信を胸に上位に食い込んでいった。

6区の内山椋太選手（3

年）は首位でたすきを受けたが、後続との差はわずか。「トップは絶対に譲れない」と持ち味の粘り強さを見せ順位をキープ。接戦が続いたが、最終7区の田中智稀選手（同）は「後ろにはつかせたくなかった」と最後にスパートをかけ、2位と9秒差をつけた。

選手たちの手には強い雨でにじんだ「王座奪還」の文字。昨年は2位で、悔しい思いをした。小松映智主将（同）は都大路に向け「目標は入賞。しっかり準備していきたい」と言葉に力を込めた。

（小山豪）

11月3日(日)

中日新聞 朝刊より